

経済学 IIB 「マーシャルプランと戦後世界秩序の形成」

第 1 回 2000 年 10 月 4 日

【講義予定】

- [1] 欧州統合の現段階と史的概説
- [2] 欧州統合の起源とマーシャルプラン
- [3] ブレトンウッズ協定とマーシャルプラン
- [4] アメリカー欧州復興計画
- [5] イギリスースターリング圏の再生
- [6] ドイツードイツ復興問題
- [7] フランスー「近代化・設備計画」
- [8] OEEC(欧州経済協力機構)と EPU(欧州決済同盟)
- [9] ECSC(欧州石炭鉄鋼共同体:シューマンプラン)
- [10] EDC(欧州防衛共同体)構想破綻とスパーク報告
- [11] ローマ条約とユーラトム
- [12] 通貨交換性の回復過程

[1] 欧州統合の現段階と史的概説

(1)第二次大戦後の欧州統合運動の大まかな展開

1946 年 チャーチル、「欧州合衆国(United States of Europe) 構想

1947 年 **マーシャルプラン(欧州復興計画)発表**

マーシャルプランの受入機関として OEEC(欧州経済協力機構)発足

1950 年 シューマンプラン発表→ECSC(欧州石炭鉄鋼共同体):イギリス不参加

The Six(フランス・西ドイツ・イタリア・ベルギー・オランダ・ルクセンブルグ)

EPU(欧州決済同盟)成立:イギリス含む

1957 年 **ローマ条約**→EEC(欧州経済共同体)・Euratom(欧州原子力共同体)

1963 年 第 1 回イギリス加盟申請拒絶(フランス)

1967 年 EC(欧州共同体)成立←EEC/Euratom/ECSC

第 2 回イギリス加盟申請拒絶(フランス)

1973 年 **拡大 EC の成立**:イギリス・デンマーク・アイルランドの加盟

- 1979年 欧州通貨制度(EMS)発足
- 1981年 ギリシャ加盟
- 1986年 スペイン・ポルトガル加盟→12カ国体制
- 1991年 マーストリヒト条約(欧州連合条約)
- 1995年 オーストリア・フィンランド・スウェーデン加盟→15カ国体制
- 1999年 単一通貨制度への移行・ユーロ発足
- 2002年 ユーロ紙幣・硬貨発行予定

(2)欧州統合をめぐる中心的論点

①統合推進の諸課題(困難)とアプローチ

～「深化(ディープニング)」と「拡大(ワイドニング)」

深化:通貨統合につづく新たな統合の課題(金融政策・雇用政策の統合等)の追求

拡大:東欧諸国への統合拡大

「どちらを重視するか?」

その背景には、欧州最大の経済パワー・ドイツをどのように欧州統合の枠組みに組み込むか?という問題(欧州統合史上一貫した最重要テーマ)

②欧州統合におけるイギリスの位置

「なぜ1950年の6カ国体制スタート時にイギリスは欧州統合に参加しなかったのか?」

「フランスは1960年代の二度の加盟申請をなぜ拒絶したのか?」

「イギリス・ポンドはユーロに加わるのか?」

③欧州統合とアメリカを中心とした国際経済体制はどのような関係にあるのか?

・「ヨーロッパ要塞論(Fortress Europe)」

戦後国際経済体制の原則(無差別多角原則)からの逸脱

↑

↓

・「開かれた地域主義(Open Regionalism)」

地域的な自由化を通じて国際的にも自由化が進展

ex)最近の論点「ユーロ誕生はドル一極支配を揺るがすか?」

↓

・ユーロ発足を機に、国際経済論の各分野で上記の論点の研究がなされる。

・他方、歴史的アプローチからの検討も始まる。

(3)歴史学への波紋と講義の課題

・戦後欧州統合史―「ヨーロッパ独自の運動か、アメリカの思惑にリードされたものか?」

・ 論争の焦点～マーシャルプラン(欧州経済復興計画)の評価をめぐる論争

[マーシャルプランの内容] 1947年初頭の西欧の政治的・経済的危機に対してアメリカが実行した対欧財政援助と欧州復興計画

→マーシャルプランを通じて戦後の欧州経済復興の路線が確立された。(従来の通説)

×

マーシャルプランとは関係なく、欧州独自の努力で戦後復興が実現された。(修正論者:Revisionist)

・「1947年の西欧の危機」そのものが存在しなかったことを実証的に検討

●修正論者登場の背景

・ マーストリヒト条約交渉以降における欧州統合の急速な進展

→欧州の自立性に対する関心

・「30年ルール」(政府文書の30年後の公開原則)による実証研究を可能にする資料の充実

↓

1947年のマーシャルプラン発表から1957年のローマ条約締結のプロセスに対する実証的研究をふまえた上記の諸論点への探求

→[本講義] これらの研究を整理し、マーシャルプラン(1947年)からローマ条約(1957年)にかけての時期における西欧諸国の復興過程を検討し、上記の論争(正統派×修正論者)を評価する。

具体的には、

①論点の整理～マーシャルプランをめぐる論争状況

②主要各国の統合へのスタンス・問題点:英仏西独および米の国内政策

③EPU/ECSC/Euratom/EDC(欧州防衛共同体)など各機関の目的・内容と設立交渉における主要各国のスタンス

が主な内容

【参考文献】

廣田功・森建資『戦後再建期のヨーロッパ経済』(日本経済評論社、1998年)

嶋武彦『ヨーロッパ統合』(日本放送出版協会、1992年)

榊原英資他『ユーロの衝撃』(読売新聞社、1999年)

デレック・ヒーター『統一ヨーロッパへの道』(岩波書店、1994年)

金丸輝男『ヨーロッパ統合の政治史』(有斐閣、1996年)

田中素香『EC 統合の新展開と欧州再編成』（東洋経済新報社、1991 年）

他多数(随時紹介します)

注)成績評価の方法:期末の試験(論述形式)のみで評価します。レポート・出席は成績評価の対象とはしません。

講義出席への準備:指定書(『戦後再建期のヨーロッパ経済』)の関連箇所を前の週に指定しますので事前に読んでくることが望ましい

。

次回: [2] 欧州統合の起源とマーシャルプラン

～ミルウォード×ホーガン論争を中心に

指定書関連箇所:「序章」